

小学校第3学年 図画工作

②「わたしの狛犬(こまいぬ)守り神」 —地域の身近な狛犬を鑑賞しよう—

学習のねらい

- 学校の近くの神社にある「狛犬(こまいぬ)」を題材に、身近な造形の面白さや楽しさを感じ取る鑑賞の授業に取り組む。神社は多くの児童が毎日登下校で前を通ったり、お祭り等で訪れたりする親しみのある場所である。みんな、対話をしながら楽しく鑑賞し、「狛犬」のもつ形などに気づき、自分のイメージをもてるようにする。
- 事後の学習で、狛犬を鑑賞して気付いた面白さや楽しさなどを生かし、自分の大切なものを守ってくれる守り神を、粘土を使って表現する活動につなげる。



郷土の資源について

一般的に「狛犬」は獅子と対になってつくられたものである。古来、インドや中国で宮殿や墓の前に獅子を飾る風習があり、日本には仏教とともに伝来した。仏堂の守り神の獅子の対として、後に霊獣の狛犬がつくられるようになった。はじめは神仏や宮中の高貴な人物の守護神として屋内に配置されたが、その後、庶民が飢饉や災害から守るよう寺社に奉納し、屋外に置かれるようになる。「村中安全」「五穀豊穡」など庶民の願いの象徴となり、地域の身近な神社の守り神として親しまれるようになった。

児童が何気なく見過ごしている身近な場所にある造形作品に目を向け、その形や色のよさや面白さなどに気付かせることで、郷土の造形作品への関心や愛着を深めたい。



学習指導要領上の位置付け

第3・4学年 A表現(2)、B鑑賞

学習の流れ

1. 身近な神社の狛犬(こまいぬ)を鑑賞する。(本時)

1 時間

2. 自分でイメージした「こまいぬ(守り神)」を粘土でつくる。

2 時間

	学習活動	指導上の留意点（※評価規準）	備考
導入	○身近な神社の狛犬をじっくり鑑賞して、形の面白さなどに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分なりの気付きがもてるように、鑑賞する時間を十分に確保する。 ・どこを見てよいか分からない児童には、個別に「これ犬？」「どんなポーズをしてる？」など、狛犬の形などに注目できるように声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気付きをメモするための付箋 ・付箋を貼るためのボード
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを話したり友達に質問したりして互いに気付いたことを共有する。 ○友達の考えも参考にしながら「狛犬」のイメージをもつ。 ○グループ毎に自分たちの狛犬のイメージを基に「よろしくこまいぬ」の寸劇の台詞を考える。 ○「よろしくこまいぬ」の寸劇をグループで発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの根拠として、形や色などの造形的な特徴に気付けるようにする。気付けない児童には、見るポイントを具体的に絞って伝える。 ・友達の意見と自分の考えを比べ、考えを深めさせる。 ・狛犬の性格や気持ちなどの自分たちのイメージを台詞に反映できるようにワークシートの内容を工夫する。 ・自分たちの考えた狛犬のイメージに合った話し方を工夫するよう声かけをする。 ・「それはどこかな？」「本当にそうってるね」など各グループの狛犬のイメージの根拠となる形などの特徴に気付けるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○グループの発表も参考に、自分の「狛犬」のイメージを広げる。 ○次時予告 自分でイメージした狛犬を粘土でつくることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他のグループの発表を基に、一人一人の児童が自分の「狛犬」のイメージを広げることができるようにする。 ※楽しく「狛犬」を鑑賞し、形や色の特徴に気付き、面白さなどを感じ取っている。 ・今日のイメージを基に、身近な神社の狛犬の友達を考えさせる。 	

発展的学習・他教科との関連

- 他教科との関連
 - ・生活科「町たんけん」第2学年
 - ・道徳C「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」
- 参考文献 奈良教育大学学内刊行高円史学「大和の獅子・狛犬」長田光男
龍谷大学論文「教材としての狛犬研究」小寺慶昭